

平成28年度 新発田・北蒲 保健部 活動報告

部長 佐久間 由美子

1 研究主題

児童生徒の「生きる力」を育む学校保健活動の充実を目指して

2 研究の概要

- 学校保健を基盤としたよりよいアプローチの在り方や養護教諭の専門性を生かした支援について学ぶために研修会を開催する。
- 部員から要望の多い心因性来室者への事例の学習会を行う。



3 研究の実際

- 4月 保健部研究計画の検討〈第1回研修〉
 - ・役割分担
 - ・事業の決定
- 6月 講演会 〈第2回研修〉
 - ・「生きる力」を育む学校保健活動の充実を目指して
～健康相談における初期対応（養護診断）の在り方について～
講師 スクールカウンセラー 佐藤 さよ子 様
- 11月 講演会・事例検討会 〈第3回研修〉
 - ・「保健室来室者への支援の在り方（事例検討）」
 - ・「健康相談における初期対応の在り方と評価」
講師・事例検討会指導者 県立教育センター 指導主事 森 和香子 様

4 成果と課題

- (1) 第2回研修では、「健康相談における初期対応（養護診断）の在り方」について、養護教諭として勤務されていたスクールカウンセラーの佐藤さよ子先生から、御講演いただいた。保健室へ来室した児童の身体症状にしっかりと向き合い、器質性か心因性か根拠をもって判断すること、養護教諭の特質や保健室の機能を生かして健康相談を行うことが大切だということを教えていただいた。また、会員同士で毛布を掛け合い、掛けられたときの感じ方が違うことを体験することができた。ベッドで休んでいる児童に、どのように毛布を掛けているのか、日頃の対応を振り返る機会となった。
- (2) 第3回研修では、各校で作成した保健室来室者個人記録表の中から2校の事例について発表をしてもらった。その後、グループに分かれて対応や支援について検討を行った。また、「健康相談における初期対応の在り方と評価」と題し、県立教育センター森和香子先生から御講演いただいた。養護教諭が行う健康相談の特徴や進め方、児童の様子から養護診断や見極めを行い、具体的な方策を基に対応し、評価することが大切だと教えていただいた。
- (3) 保健室に来室してくる児童の問題が、多様化・深刻化している。対応も校内や関係機関などと連携し、組織的に対応することが重要となっている。今後も健康課題解決のため、専門性を発揮しながら組織での対応や支援方法について、研修を積み重ねていきたい。